

# 1 自己評価及び外部評価結果

(別紙4)

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2491400061		
法人名	ヘルスケアサポート株式会社		
事業所名	グループホームいなべ		
所在地	三重県いなべ市員弁町松之木367-1		
自己評価作成日	令和5年12月11日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhvu_detail_022_kani=true&amp;JigovsvoCd=2491400061-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhvu_detail_022_kani=true&amp;JigovsvoCd=2491400061-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	令和6年2月29日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>入居者と家族が最後まで安心して信頼関係を築ける精一杯支援させていただきます。</p>
---

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>桑名市の西隣であるいなべ市に当事業所があり、周りには田畑が広がり自然豊かな静かな場所である。理念に掲げている「笑顔と信頼」の言葉通り、全職員が常に笑顔でいる事が信頼関係の基本であると認識し実践に努めている。また、職員に技能実習生の受け入れをしていて、入社半年前より母国にて介護の基礎をリモート研修で終え、事業所では翻訳機で不明な言葉は施設長に聞く等している。日常的にリビングは笑顔と対話（日本語・母国語）が弾んで賑やかである。職員が生き生きとしていると利用者も笑顔が自然と出る様になり、家族への安心に繋がる事業所でもある。</p>
--

## V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9, 10, 19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目：11, 12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	技能実習生も笑顔が絶えないような信頼関係を築けるようになった。	法人理念とは別に事業所理念「笑顔と信頼」を玄関、事務所、リビングなど目の付く所に掲げ、職員会議などで再確認し、共有し、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍のために散歩に出る機会が少ないが地域の方に顔を覚えていただけた。	事業所近くの散歩コースに地域の掲示板があり、市内・町内・近隣の行事などの情報を得ている。利用者はコロナ禍以前の様に地域の人達との交流（ボランティア訪問）の再開を楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症について相談があればじっくり聴かせていただきます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議が開催できなかった。事業計画や施設の運営状況を報告する。	今年もコロナ感染症が怖くて運営推進会議の開催が出来なかった。が、2か月毎に書面での開催が出来る事を知り、参加者に向けて提出する書類を準備中である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターよりの研修の情報を得る。	介護保険の申請などは昨年より新しい介護支援専門員が行政に出向いている。初同居利用者に対しての困りごと相談には、施設長が市や包括支援センターに出向き助言などを受けている。	介護保険の保険者である行政の窓口へ出向き、各種の提出書類や手続き、相談、課題解決へと日頃から共に取り組んでいく事を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者の混乱を受け留めて介助は安全を考えながら行う。	年間を通して法人の研修計画がある。事業所内部でも拘束（身体・言葉）の意味を全職員が理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	ナンプグループ全事業所の取り組みとして虐待防止ポスターを各施設に掲示し随時職員は虐待防止について話し合う。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に出ることが難しいが職員の知識、経験が浅い職員も理解ができるようにする。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約改定時には必ず家族に説明、同意書を郵送して理解を得る。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に常に状況説明を行い本音で話していただけるような関係づくりを行い、職員もスムーズに対応できるようにする。	日頃から家族への要望には出来る限り対応している。家族へは毎月、利用者の近況報告や日常の写真が多く載った「ホーム便り」を送付する事で会話も増え意見や要望を聞く工夫をしている。所内対応が困難な事項は法人へ相談している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	働きやすい職場にするために業務内容の統一を行い、意見交換をします。	年1回、施設長・本部役員は職員との個別面談を実施している。業務内容や人間関係等について全体の職員会議では聞けない声は、日頃の支援時に施設長が聞き、その声を運営に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員は自信をもって仕事ができるように役割分担で仕事内容を決めています。休憩をとりやすくし気持ちの切替をしてもらいます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のケアについて互いにアドバイスできるようにじっくり取り組みます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で交流もなかった。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	症状が進むことにより不安が多くなったらその都度見直して安心してもらう。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族にも症状の進行を説明しながら希望に添えるように努めます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの変化を家族に理解してもらう。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	長期入居で症状に変化があるか、できることを見つけやれることを継続していく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で面会制限をしたが、本人、家族の希望に添えるようにした。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の訪問希望を受けて短時間居室の面会ができる機会を作りました。	利用者の入居年数により馴染みの人との関係継続は難しいが、暑中見舞いや年賀状を出したい利用者の支援をしている。書けない人はシールや代筆および電話をする支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	おやつやお茶を配っていただきながら入居者の名前を憶えていただく。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された家族様とも連絡が取れる関係を続けています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	やりたいことの意味表示は難しくなってきたが、無理強いはいしない。	入居時に一人ひとりの思いを汲み取って希望や趣味などを聞いているが、入居後も一日を通して支援時に、利用者に寄り添い本音を聞き取り連絡帳に記入し、職員で共有している。難聴の利用者とはホワイトボードで筆談している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	会話の中に昔の生活について聞きながら 落ち着けるサービスに繋げる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	昼夜逆転もあるがなるべく日中活動ができるようにしてリズムを作っていた く。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状に合わせた支援ができるよう常に状態変化に気づき、意見やアイデアが出せる計画にする。	施設長が記入した個々の支援経過と連絡帳、家族や担当職員の意向も取り入れながら毎月の職員会議で話し合って介護支援専門員が介護計画を作成している。状態に変化があれば、その都度、関係者で話し合ってプランの変更をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	交代勤務の為申し送り時の情報が途切れないように介護記録、連絡ノートの確認を徹底する。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の意見や苦痛なく過ごせるよう本人や家族の要望等に常に耳を傾け、苦痛のない柔軟なサービスにて支援させていただきます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩に出かけ地域の方々とコミュニケーションが取れるようにします。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医が変わったが看取りも出来る主治医になったため安心できる。	内科は全員が協力医を主治医としており、看護師と共に月2回の訪問診療を受けている。他科受診は家族対応および職員が代行支援をしている。夜間・緊急時は24時間、主治医の指示の下、適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は入居者の体調等で不安な時は月2回の訪問時以外も都度報告し指示をおおぐ。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	職員は施設での本人の状態を報告させていただくよう可能な限り同行いたします。また入院中は医療機関や家族と情報交換を行い、退院後の不安軽減に努めます。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り希望の家族に入居者の状態を共有しながらケア支援を行う。	事業所として家族の要望があれば看取り支援はする方針である。昨年、看取り専門の診療所と連携して1名の看取りをした。入居時には利用者・家族に対して終末期のケア方針の説明と同意、緊急時の具体的な支援の在り方等を話し合い共有している。職員も「看取りに向けての心がまえ」のマニュアルに沿って研修している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、通報訓練や消防訓練を職員全員で行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防通報の再確認を行い夜勤帯一人でも迅速にできるようにした。	水害や土砂災害への警戒は心配ないが、火事・地震・台風などを想定し、年2回（1回は消防署立会い）避難訓練を実施した。避難場所が遠く何かあれば敷地内で待機するように指導を受けた。食料備蓄は数日分確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	失敗時一人のお客様としての人格を損ねないような声掛けを行いプライバシーの保護に努めます。	利用者の仕草に、なぜそうするかを考え、納得できる様に向き合い、利用者の立場を考えた支援が出来るように研修している。排泄の失敗があっても、さりげなく声掛けをして居室でケアをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り本人の意思を大切にさせていただき、起床就寝時間も本人の希望に添えるようにして、食事時間等も遅らせるなど。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースに合わせ、ホールで過ごしていただき一緒にお茶やおやつを食べて、無理にはお部屋に誘導しない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が着脱し易いような服を着たり合ったサイズの洋服を身につけていただく。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事形態や無理強いせず使いやすい食器等で食べる楽しみを作る。	週に4日(水・木・土・日)は調理専門の職員が作り、他の日は調理済の料理をボイルして提供している。季節の行事食や誕生日の「お楽しみ献立の日」は利用者に好評で食べる楽しみを味わってもらう工夫を常にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お茶だけでなくココアやゼリーや乳酸菌飲料で水分を摂っていただいたり食事量が不足していたら医者に相談する。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きやうがいの声掛けを行い、できないところは支援させていただきま す。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失敗が続いている入居者には早めの声掛けを行い排尿リズムの確立を行う。	全職員が一人ひとりの排泄パターンを把握して声掛け・誘導・見守りを行いながら排泄介助に取り組んでいる。導尿カテーテル予定の利用者を2～3時間毎にトイレに行く習慣を付けたら自然排尿となり自立支援に繋がった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事摂取量や飲水量の記録確認を行い、脱水に気を付け食べ物の工夫や体操等運動を取り入れています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴も一人一人ゆっくり安心して入っていただき、1対1で話せる時間をもちながら洗身してリラックスできるようにしています。	週2～3回入浴を基本としているが、利用者の体調に合わせて足浴・シャワー浴・清拭など柔軟に対応している。湯船に入り職員と対話しながらゆったりと過ごしてもらおう工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間入眠しやすいように短時間の昼寝にしたり、空調管理や採光にも気をつける。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は配薬時の声出し確認、薬の変更時の副作用の理解をする。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみや台ふきなどできるところまでしていただき自信をもっていただく、褒めるなど感謝の気持ちを伝える。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため、外出ができないので落ち着いたら本人の希望が叶えられる様足腰が弱らないよう支援させていただきます。	人混みを避けてドライブで花見（コスモス・ひまわり・桜など）に出かけている。また散歩コースに地藏堂があり手を合わせたり、畑道で近隣の人に野菜やスイカを頂くなど利用者は事業所周辺の散歩を楽しみにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の金銭所持はありません、必要であれば立替させていただきます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いなど家族あてに自書でだしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	汚れは素早く片付けて安全清潔に過ごしていただけるよう整理整頓に心がけ、照明 温度 確認し 空調管理を行っています。壁紙を貼って季節を味わっていただけの空間作りを大切にしています。	天窓から採光を、廊下の窓を少し開け換気を、外から内が見えない窓ガラス、幅広い廊下にソファが数個、多目的利用の畳コーナーには季節感溢れる雛壇飾りが置かれる等、あちらこちらに工夫が見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	他の入居者とコミュニケーションをとっていただけるようソファやたたみ等ご用意させていただきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分で衣服等の管理ができる方が少なくなかった。片付けを一緒にして頂いております。	事業所としてエアコン、ベット、机と椅子、大きなクローゼットが設置されている他は、使い慣れた布団や家具などを家族の協力で持ち込まれている。壁には家族写真や年賀状を飾り、落ち着いて過ごせる良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の状態を把握し 運動レクを取り入れ歩行をし見守りながら 危険個所の把握に努めます。		